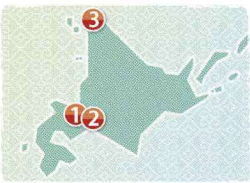




アイヌ語で「広場」の意味
文 北原 モコットウナン 絵 小笠原 小夜



道内には、アイヌ語が基になった地名がたくさんあるよ。
いくつ読めるかな。
①札幌市南区真駒内
②恵庭市
③稚内市

＝答えは紙面の下＝

読んでみよう

アイヌ語には日本語にない音があります。これをカタカナで書くときには字を小さくして表します。このページのタイトル「ミントラ」の「ラ」もそうですね。小文字は全部で14種あります。毎回、そのいくつかの読み方をしましょうか。

今回は「ウェ」です。たとえば「ハウェ（～の声）」、「ウェン（悪い）」というときの発音です。英語の「ウェンズデイ（水曜日）」と同じ発音です。ウとエをくぎらず「チェ」と同じように一息で発音します。「ウェ」は、本によっては「エ」のように書かれていることもあります。どちらで書いても発音は同じです。

「ウェ」の発音を動画でも学べます。
出演は関根摩耶さん。指導は千葉大学文学部教授の中川裕先生です。スマートフォンを持っている人は、QRコードから読みこんでください。



クイズの答え

- ①まごまな(奥)・オム(ある)・ナレ(沢)。
②えにわ エン(と)・アノ(やま)。もと恵庭岳の名前だったもの。
③わにかない(イ)・ツツナ(ナ)・ヤム(冷たい)・ツツカ(沢)・ナレ(沢)。
④アイヌ語で「広場」の意味。地名の由来は「北海道の地名」(山田秀三「アイヌ語地名」)。
⑤真岡(鶴)を参考にしてます。

ミントラのこれまでの紙面は、どうしん電子版「親子ページ まなぶん」で読むことができます。今の「先人たちの物語」だけでなく、アイヌ文化をめぐる季節ごとの話題を解説する記事もありますよ。「まなぶん」でけんさくすると、このページにたどりつけます。ぜひ読んでみてください。

失くした物語 シンリッオロッパ

監修 佐々木 利和

歌やおどりの伝承 熱心に

安東ウメ子は、帯広市のフシコ(伏古)コタンに生まれ、夫の安東軍次郎と結婚してからは、十勝管内幕別町で農業をするようになりました。私も何度かお会いしたことがありますが、優しくおだやかな話し方をするカッケマツ(上品な女性)でした。1960年に、帯広市で「カムイトウ ウポボ保存会」という団体がつくれました。そのころ、フチ(おばあさん)たちは、アイヌ民族の歌やおどりを残してほしいという強い思いを持っており、その熱意を受けて活動がはまりました。加藤ナミエ、荒田マツエ、上野ササといった十勝の伝承をよく知る人々が参加し、もちろんウメ子も創立メンバーです。アイヌ民族に対する差別や、表に出ないという人々からの反対など大変な苦労がありながらも、ウポボ保存会は熱心に活動し、伝統的な歌やおどりを伝えてきました。

保存会やメンバー一人一人を取り上げた記録映画もいくつも作られました。96年に作られた「アイヌの四季」と第3巻「貯える・飲む・食べる」では、十勝地方で親しまれてきた、トウモロコシを使ったお酒の造り方をしょうかいしています。アイヌ民族のお酒といえば、ヒエやコメ、アワなどを材料にしたものが知られています。十勝地方では、そうしたお酒の造り方を応用して、トウモロコシでお酒を造ってきました。この映画は平成8年度文化庁優秀映画作品賞(短編部門)を受賞しました。ウメ子自身も長年の取り組みが評価され、2000年にはアイヌ文化奨励賞、2003年には北海道文化財保護功労賞を受賞しました。

晩年のウメ子は、東京でも講演をし、自分が受けた文化を語りました。ウメ子の歌やムックルがより多くの人々に知られたきっかけは、トンコリという楽器の奏者であるOKI氏といっしょに活動をしたことでした。共同CDを発表したことにより、テレビCMやアニメでもインケ(子守歌)が流れ、これまでアイヌ音楽にふれたことのなかった多くの人々を、その世界にひきこんだのです。(敬称略)

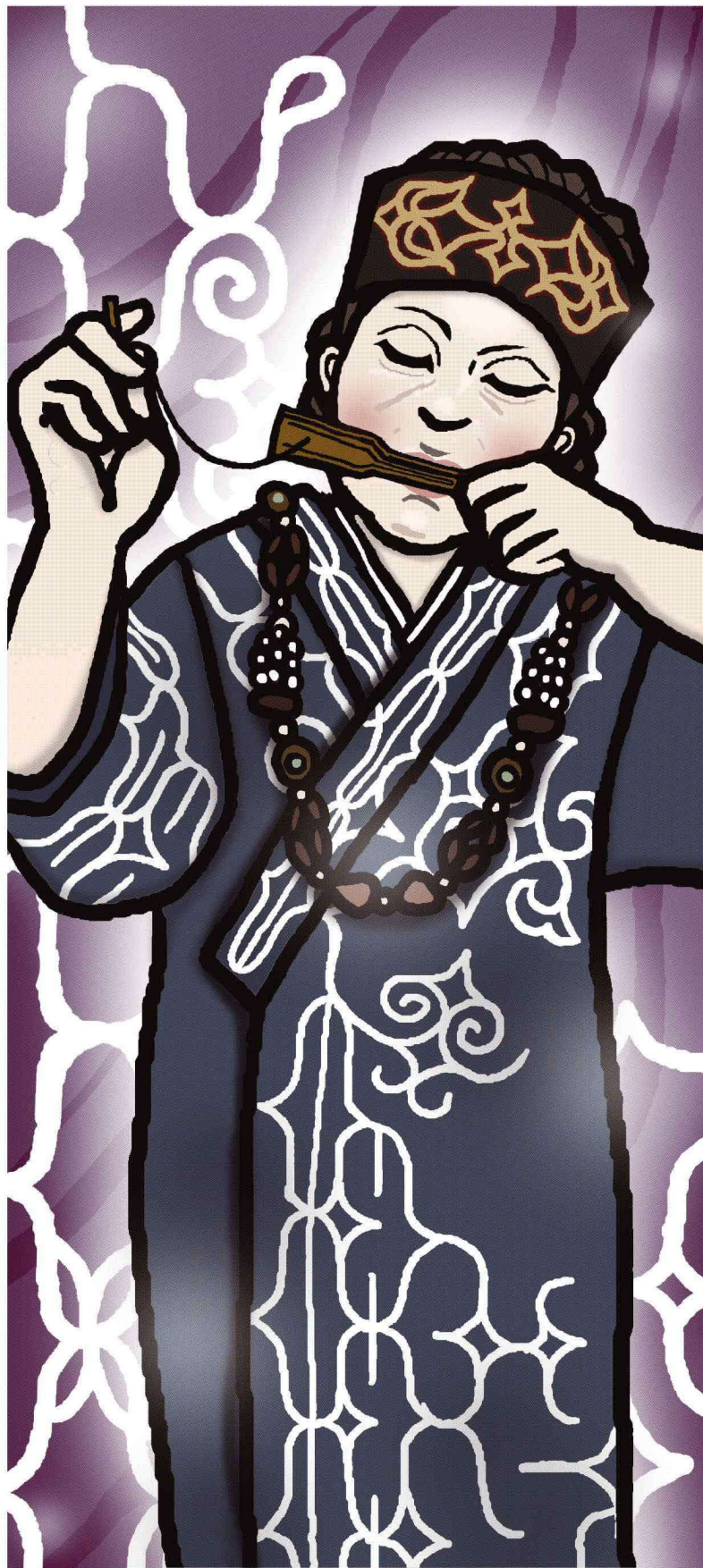


夫の軍次郎と幕別町で農業にはげんだ

帯広のカムイトウ ウポボ保存会
十勝地方の芸能を受けついでいくために結成された

ファッション関係のCMにインケ(子守歌)が。
札幌駅前ビジョンでも流れ多くの人が目にした

安東 ウメ子 (1932～2004年)



十勝地方は、東の釧路だけでなく、日高山脈をこえて日高地方や石狩・上川地方ともつながりの深い地域です。今でも、もっとも歌やおどりが盛んな地域の一つであり、見ても体験しても楽しいおどりがたくさんあります。カムイトウ ウポボ保存会の元になる動きは、1952年ごろに起こりました。以前から、十勝地方にはキリスト教を学んだアイヌの人々たちによる教育の改善や禁酒といった運動があり、百人古潭矯風会という団体もつくられて、暮らしを良くする努力が続けられてきました。ところが、こうした取り組みにもかかわらず、差別が激しく、アイヌ文化から遠

ざかる人々も多くなりました。十勝アイヌの文化が途絶えることを心配した2人のフチが先生役となり、若い世代の女性たちが歌やおどりを学ぶ会が始まりました。しかし、男性の参加者はなかなか集まりません。それどころか、アイヌ民族であることを胸をはって語れない風潮に、屈折した思いを持った人々は、会の活動に反対することもありました。そこで、女性たちは男性のおどりも覚えて受けつぐことにしました。こうして、こんにちにつながる豊かな十勝の文化は、女性たちによって守られてきたものも多いのです。

女性が守った十勝の文化